

# 「大阪・関西万博」で “目指したもの”と LGBT+当事者から見た “現在地”



新設Cチーム企画(アクセシビリティチーム)

1

## 新設Cチーム企画の活動

当会は2007年から大阪を拠点として、LGBTQを支援する動画や教材を作り地域の当事者や教育機関に発信しています。長年培ってきたノウハウとネットワークを基盤にコミュニティ作りに貢献します。

2022年からは、近畿運輸局や大阪万博の当事者委員としてオールジェンダートイレ設置や包括的接遇などの推進・啓発に携わっています。この発表では万博での当事者参画の取り組みで行ったことと万博で調査したことを報告します。

## その他の活動

- 小学生向けSOGIESCを包括した性教育教材プロジェクト
- LGBTQ+の健康とスポーツ・運動環境
- ろう者をはじめとする障害のあるLGBTQへのサポートや情報保障の啓発
- LGBTQ+フレンドリーな医療機関を開拓、リスト化を目指すプロジェクト
- 教材、ワーク開発・海外資料翻訳・調査
- 研修・講師派遣・研修講師育成・多様性コンサルティング

2

## 万博で“目指したもの”と当事者から見た“現在地”

- (1) ガイドライン周知と研修(問題意識の共有)
- (2) オールジェンダートイレの挑戦と改善点

3

## 目指すものとしてのガイドライン

@交通アクセスに関するユニバーサルデザインガイドライン検討会

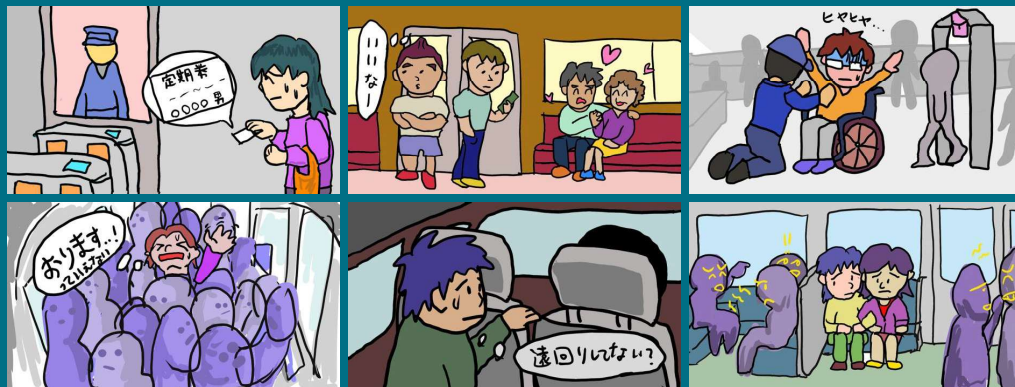
ガイドラインの目的の文言にあった「性別」を「SOGIESC」に変更することを要望し、ガイドラインの文言に加えられた。また、LGBTQ+のニーズやオールジェンダートイレの必要性について発言し、交通アクセスに関するユニバーサルデザインガイドラインに反映された。参照: [交通アクセスの検討状況](#)

- 「本ガイドラインは、国・地域、文化、人種、**SOGIESC(※1)**、世代、障がいの有無に関わらず…」(P1)
- 2. ガイドラインの考え方の中で「様々なニーズにより恩恵を受ける人」として**LGBTQが明記**。(P6-7)
- 3-4-3. 施設・設備(1)トイレ「**車いす使用者便房以外にオールジェンダートイレを設ける**。」(P133)

4

## 目指すもののための手引き作成 @交通事業者のバリアフリーソフト対策検討会

「交通事業者向けバリアフリーサポートBOOK」の制作



5

## 目指すもののための研修

@ユニバーサルサービス検討会

「来場者にLGBTQ+の人々もいることを前提にした、包括的な対応と注意点」



6

## 実際に万博の会場で起きていること

- 来場者を「お姉さん」「お兄さん」など**ジェンダー化した呼びかけ**をするスタッフ、ボランティアがいた。
- ミスジェンダリング**(性別を間違えられて)不快な思いをさせられた人がいた。
- 清掃員の人**がトイレ利用者を主観で振り分け**ていた。「あなたはこちらのトイレ、あなたはこちらのトイレ(を使ってください)」(休憩所2トイレW44)(西ゲート外のバス乗り場のトイレ)

7

## 万博の状況から見える現在地

1. ガイドラインが周知されていない
2. 問題意識が共有されていない
3. 研修の不足

8

## (2) オールジェンダートイレの挑戦と改善点

1. 夢洲駅及び弁天町駅のアクセシビリティガイドラインに関連する意見交換会
2. 日本館におけるユニバーサルデザイン意見交換会
3. 大阪ヘルスケアパビリオンユニバーサルデザイン検討会

9

## オールジェンダートイレ調査マップ



10

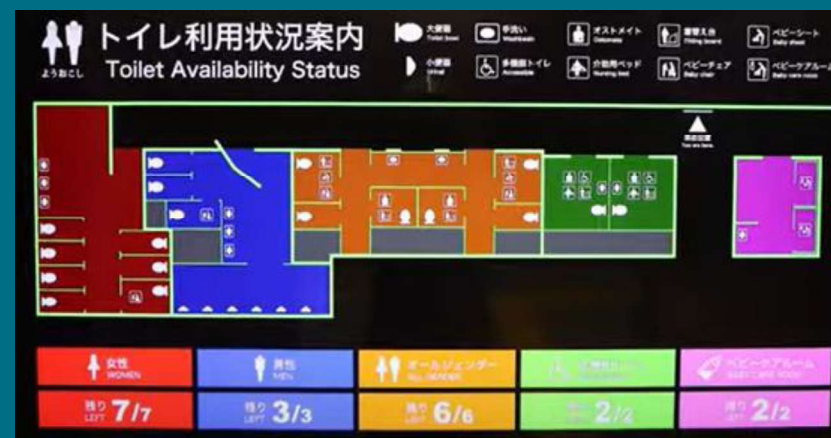
## 使いやすいトイレを目指して Cチームが要望してきたこと

1. 排泄に介助が必要な人の増加、家族を介助したり、子育て中の人など、同行者と性別が異なる場合、いっしょにトイレに入れない問題をオールジェンダートイレは解決する。かつ、性別で分かれたトイレに入りにくい人たちのニーズもある。
2. バリアフリートイレを含め性別に関わらず使えるトイレの数を増やす
3. オールジェンダートイレの設置
4. ジェンダーステレオタイプを助長しないピクトグラムへの変更

11

## 事例紹介: 夢洲駅

動画: 関西の鉄道ではじめてのオールジェンダートイレ



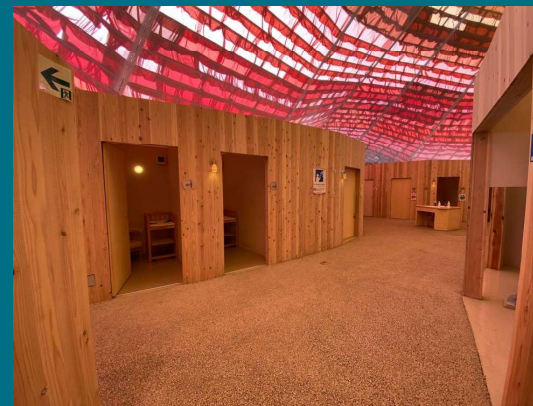
12

## 事例紹介:トイレF43(静けさの森)



13

## 事例紹介:トイレW76(西ゲート) (身体性を触発する休憩所+トイレ「fuku fuku」)



14

## 良かったこと

万博で、一つの理想形が見えたこと。

具体的には、

- トイレに関心が向けられたこと
- しっかりと、理念・予算・スペースが必要であることが示されたこと
- はっきりと、「オールジェンダートイレ」が明示されたこと

15

## 今後どのようなトイレ設置を進めて欲しいか

1. バリアフリートイレを含め性別に関わらず使えるトイレの数を増やす
2. オールジェンダートイレの設置
3. 心理的(精神的にも)・物理的にも全ての人が入りやすい設置にすること
4. ジェンダーステレオタイプを助長しないピクトグラムへの変更
5. 性別で分かれていないトイレの設置意図や必要性を啓発し社会に周知すること
6. 小便器利用者のプライバシーの確保
7. 特定事業、関連事業の指定

16